



町内のトップを切って初市

町商工会長瀬支部が八日市を開催



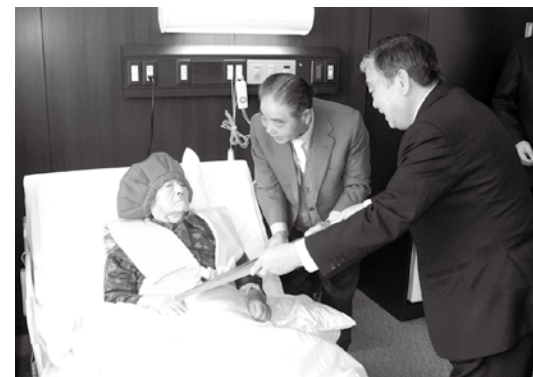
地区住民の笑顔があふれた会場の様子

長瀬地区の初市「八日市」は1月8日、川桁防災センター前で開催されました。市開きでは、町商工会長瀬支部の石田信義支部長が「風評に負けず、商工業も頑張っていきたい」、川桁地区の長澤一夫区長が「復興のためには、私たち一人一人が前に進むとする気持ちが大切」とあいさつ。川桁謡真鼓楽会の勇壮な太鼓演奏がオープニングに華を添えました。

晴天に恵まれた広場には、起き上がり小法師、風車やだるまなどの縁起物、同支部女性部による焼きそばやたこ焼きなどの露店が出店され、地区住民らでにぎわいました。

佐藤シノさんが満100歳に

長寿を祝い、知事賀寿などを贈呈



佐藤さん(左)に賀寿を手渡す前後町長(右)

1月5日に満100歳の誕生日を迎えた佐藤シノさん(下館)への知事賀寿贈呈式は同日、町立猪苗代病院で挙行されました。

山口靖明会津保健福祉事務所長が、知事賀寿と記念品の会津漆器の木杯を贈呈。続いて前後町長と戸田忠義町老人クラブ連合会会長が賀寿や記念品を贈った後、ひ孫の佐藤翼くんらが花束などを手渡しました。

「80歳くらいまでは、病気一つしたことがなかった。若いころは一生懸命農業に取り組んでおり、それで体が丈夫になったのだでしょう」と長男の光男さんは話しました。

博士の生家を鮮やかに飾る

野口英世記念館恒例のだんごさし



色とりどりのだんごなどを飾りつける児童

翁島小学校の1年生と3年生の合わせて約30人は1月12日、野口英世記念館内の博士の生家で、豊作や家内安全などを祈る小正月の伝統行事だんごさしを体験しました。

八子弥寿男館長のあいさつの後、同館の鬼多見浩さんがだんごの色ごとに込められた願いなどについて説明。その後、児童らは居間に設置された大きなミズキの木に、紅白や緑・黄色など色とりどりのだんごやふなせんべいなどを飾りつけました。

3年生の内田洸太さんは「4年生になっても、勉強やスポーツを頑張れるように祈りながら飾りをつけました」と話しました。

年頭に無火災・無災害願う

町消防団幹部らが出初め式を挙行



町民の安心、安全な生活を祈願しました

今年1年の無火災、無災害などを祈願する出初め式は1月6日、町内の諏訪神社で執り行われ、町消防団幹部など約40人が出席し、玉串をささげて町民の安全を祈願しました。

神事後、前後公町長が「不屈の消防魂で訓練され、不測の事態に備えてほしい」とあいさつ。土屋孝彦団長が「それぞれ仕事を持ちながらの消防団活動は大変だが、地域住民の生命・財産を守るという使命のもと、団員としての職務に精励してほしい」と団幹部らを鼓舞した後、鈴木武喜町議会議長、小檜山善継県議らが祝辞を述べました。

防火・防災の意識を高める

婦人団体が防火・防災研修会実施



住警器の有効性・重要性などを学ぶ会員ら

町婦人連絡協議会、町交通安全母の会、町婦人消防連絡協議会の3団体による防火・防災研修会は1月25日、猪苗代四季の里で開かれ、会員ら45人が防火・防災の決意を新たにしました。

猪苗代消防署の目黒安男予防係長、町総務課防災担当の渡部克宏主査が講師を務め、火災を出さないための日ごろの心構え、119番の正しい利用法や災害への備えなどについて講演しました。

同団体の宇月静子代表は「防火・防災全般にわたる話が聞けて大変勉強になりました。住宅用火災警報器の重要性もあらためて理解しました」と感想を述べました。

縁起物などを求め長蛇の列

新春恒例の十三日市が開催される



縁起物などを求める多くの買い物客でにぎわった商店街

新春恒例の初市「十三日市」は1月13日、中央通り商店街で開かれました。オープニングセレモニーでは、大川原勝人実行委員長が「猪苗代から福島元気発信したい」とあいさつ。神事、鏡開きや町芸能保存会の太鼓演奏の後、先着200人に福袋がプレゼントされました。

通りには起き上がり小法師、風車やだるまなどの縁起物や飲食物の露店が並び、多くの買い物客でにぎわいました。また、昨年末に町商工会が販売した商品券で買い物をした人が応募できる抽選会も開催され、豪華賞品当選者の発表に会場が沸きました。